



サーキュラーエコノミービジネス 実践企業

姫路商工会議所では、新しいビジネス機会として、持続可能な社会の実現に向けて資源を無駄にせず循環させる「サーキュラーエコノミー」の経済システムに注目しています。このコーナーでは、サーキュラーエコノミーに関するビジネスに取り組んでいる事業所を紹介します。

株式会社澤田棉行

「欲しい」の裏側に環境を忍ばせる。
明治から続く“落ち綿”の精神で挑む資源循環モデル

株式会社澤田棉行について

株式会社澤田棉行は、1880年（明治13年）に兵庫県姫路市で創業した繊維原料商社であり、不織布メーカーです。かつて「はりま木綿」の産地として栄えた地域の歴史を背景に、初代・澤田藤吉が紡績工程で廃棄されていた「落ち綿」を寝具の原材料として再利用するビジネスを始めたのが事業の原点です。

現在は、輸入原綿や合成繊維の卸売に加え、自社開発のオリジナル機械を用いた吸音・消音材やフィルターなどの不織布製造を手掛けています。伝統的な繊維技術にAIを用いた画像検査システムなどの先端技術を組み合わせる産学連携にも積極的に取り組んでおり、品質管理と効率化を両立させた「オンリーワン」のものづくりを推進しています。

サーキュラーエコノミーの取り組み

当社のサーキュラーエコノミーにおける核心は、創業時から受け継がれる「廃棄物を資源に変え、未来へ繋げる」という精神です。SDGsという言葉が普及する以前から、繊維廃棄物に付加価値を与えて再生する「アップサイクル」を実践してきました。

近年の代表的な事例として、ホテルの宴会場のテーブルクロス製造時の端切れを活用した御守りの開発が挙げられます。この取り組みにおいて注目すべきは、環境負荷低減という「正しさ」を前面に出すのではなく、消費者が純粋に「欲しい」と感じる機能性や体験価値に環境配慮を付随させる戦略です。「手づかみガチャ方式」によるおみくじ的体験とコレクション要素といった「商品力」を追求し、ファンのコミュニティ市場へ投入することで、無理のない資源循環を実現しています。

社会貢献を「義務」としてではなく、日常の購買行動や「推しへの愛」を動力源とする持続可能なビジネスモデルへと昇華させている点が特徴です。

今後の展望

今後は、プロ野球などのスポーツ分野で培った知見を、サッカー、バスケットボール、さらにはアーティストやアニメのファンコミュニティなど、多様な分野へ拡大していく方針です。

アップサイクルを「特別なもの」ではなく、日常における「いつもの選択肢の一つ」として社会に浸透させることを目指しています。環境貢献と収益性を両立するサステナブルなものづくりモデルを社会実装することで、地域製造業の新たな生き残り策を提示し、さらなる資源循環社会の構築に寄与していきたいと考えています。



本社



従来製品
(繊維技術を活かした高性能吸音材等)



画像検査システム



広島カープグッズ
(手づかみガチャ方式御守り)



JRAグッズ
(ハロン棒クッションキーホルダー)

代表者：澤田 堯

D 事業内容：繊維原料卸販売、
A 吸音材・フィルター・各種不織布の製造販売

T 所在地：姫路市西今宿3丁目9番10号

A TEL：079-292-0951

HP：http://sawadamenko.co.jp/